

「患者さんに学び、患者さんに還元する」を理念に「さらに愛される愛大病院」を目指す

医学部附属病院長 杉山 隆

■ 病院長就任にあたってのビジョンや展望を教えてください。

私が病院長を拝命した今年度は第3期中期計画・中期目標の最後の年にあたり、来年度からは第4期が始まります。第4期には地域医療連携の強化、高度医療の維持・発展、地域志向型の医療者の輩出、臨床・基礎の連携強化を介した研究の推進に加え、老朽化した病棟の再開発を加えたいと考えます。県内唯一の特定機能病院として、高度医療の提供に関しては、安全強化と種々の医療導入におけるプロセスにおいて、引き続きガバナンス強化を進めます。また、新型コロナウイルス感染症の第4波においては、多方面との協力・連携の重要性を実感しています。病院間だけでなく診療所も含めた地域医療ネットワークの維持・発展はもちろん、行政との連携も強め、県民の皆様から“さらに愛される愛大病院”を目指します。

■ 感染症対策について。

新型コロナウイルス感染症の蔓延化に際し、内外のコロナ対応を積極的に行いました。第4波は落ち着きつつありますが、第5波がいつ生じても不思議ではありません。さて、当院の役割として、県内の重症患者さんの管理があげられます。第4波では、当院は県内の重症患者の約80%を受け入れる中、4月末にはほぼ満床という危機的状況に直面しました。人工呼吸器管理を必要とする新型コロナ患者さんの受け入れ拡大を県下の医療機関に連携依頼を行いました。また、感染抑制のための啓発活動も重要と考え、当院の佐藤救急科教授や田内感染制御部長に加え、村上愛媛県医師会長、管愛媛県立中央病院長、横田松山赤十字病院長、そして行政の方の協力のもと共同記者会見を行い、県民の皆さんに医療の逼迫を訴え、感染防止対策の徹底に関するメッセージを届けました。さらに、新型コロナウイルス陰性化後の重症患者さんの後方支援についても、内外に連携を依頼しました。現在はワクチン接種に関し、愛媛大学として、職員の皆さんの協力を得て職域接種のみに取り組みだけではなく、接種の拡大・加速化を図るべく行政や病院・医師会と連携して取り組んでいます。重症コロナ患者さんの対応をいただいている方々には、この場を借りて重ねて感謝いたします。

■ 新しく就任した副病院長への期待は？

副病院長には、各分野のエキスパートというべき先生方に就任してもらいました。まず、総務・経営担当の雑賀先生には、総務を担当いただくと共に2024年に始まる医師の労働時間短縮に向けた院内の働き方改革に取り組んでいただきます。サステナブルな病院経営のために多方面で活躍いただきたいと思います。竹中先生は診療・教育担当で、現在は医学科教務委員長も兼任しています。今後、CBT (Computer Based Testing) やOSCE (Objective Structured Clinical Examination) の2つの試験が公用化されることになり、診療参加型臨床実習での医行為の実施促進が期待されますので、医学部教育から病院における臨床実習までの卒前教育の充実を図っていただきます。また、適正な保険診療の遂行にも携わっていただき、ひいては収益増加につなげていただきます。近年、基礎と臨床の連携の重要性は高まる一方です。橋渡し研究推進担当の大澤先生は臨床医でありながら、基礎研究にも造詣が深い方ですので、橋渡し研究の適任者です。私が病院長になるにあたって、バイオバンク設置が公約の1つでした。この設置に関しては、山下医学系研究科長や今村先端医療創生センター長と連携しながら重要な役割を担っていただきます。

■ 読者へのメッセージをお願いします。

私は、病院長として「さらに愛される愛大病院」を目指します。患者さんに安心・安全な医療を提供することはもちろん、医療従事者が安心・安全に医療を提供できるよう、さらなる取組を行ってまいります。私たち愛大病院は患者さんの幸福を願い、地域社会に貢献すべく、たゆまぬ努力を続け、職員一丸となり、患者さん中心に高度医療を実現し続けます。



PROFILE

すぎやまたかし◎1988年関西医科大学卒業。三重大学、東北大学を経て2015年から愛媛大学院医学系研究科産婦人科学講座教授。2021年4月から附属病院長に就任。専門は周産期医学。連携を図る過程で、多くの人と出会うことが楽しみ。